

## 汽水域研究会 NEWS LETTER

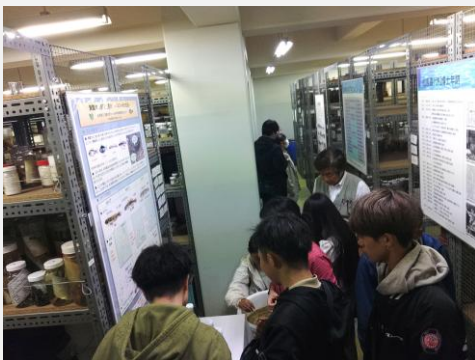
## 第17回舞鶴大会開催報告

## 汽水域研究会第17回舞鶴大会開催報告



天橋立 撮影:安藤 卓人

2025年10月25日(土)・26日(日)に京都府舞鶴市にて開催された「汽水域研究会2025年(第17回)舞鶴大会」は、多くの大学生・大学院生を含む研究者が集まり、例年通り活気のある2日間となりました。今年度の大会は、昨年に引き続いて汽水域の生態系と物質循環をテーマに、特に舞鶴湾が臨む「若狭湾」に焦点を当てて実施されました。初日は舞鶴市商工観光センターにて、シンポジウム「若狭湾の生態系・物質循環」を開催しました。福井県立大学 山田和正先生、京都大学 邊見由美先生、京都教育大学 田中里志先生にご講演いただき、若狭湾周辺の生物や古環境について学べる大変良い機会となりました。活発な質疑応答がなされ、参加者もメモを取りながら熱心に耳を傾けておりました。その後のポスターセッションが行われ、学生・院生と教員・研究者の間で分け隔てなく密な議論がなされていた印象でした。懇親会は、いけす料理 卑弥呼舞鶴で行いました。参加者の皆さんは、舞鶴飯や地酒を堪能しておりました。今回は2日目に巡検を実施しました。あいにくの雨でしたが、前日のシンポジウムもあり、例年より導入がスムーズな印象を受けました。まず、舞鶴水産実験所に訪れ、邊見先生に国内最大規模の魚類標本の案内していただきました。続いて、五老スカイタワーに向かいましたが、到着時は霧が濃く、舞鶴湾を眺めることができず一同ガッカリいたしました。出発間際に少しだけ霧が晴れて舞鶴湾を拝むことができました。その後はメインの天橋立へと向かいました。幹事はチケット手配などでバタバタでしたが、「股のぞき」を体験いただけましたでしょうか。各自昼食を挟んで、阿蘇海を縦断、文殊地域の廻旋橋や大天橋周辺の散策をして、帰路につきました。今回、大会幹事の安藤に全く縁のなかった地での開催ということで、講師の山田先生、邊見先生、田中先生や参加者からの多大なるご尽力がありました。大会を支援・協力いただいたこと、この場を借りて深く感謝いたします。



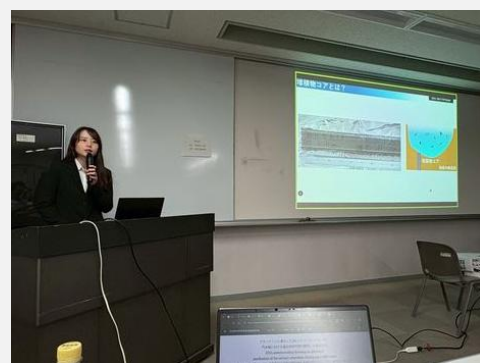
舞鶴大会の様子(左から、舞鶴水産実験場標本室、舞鶴湾(予定)、舞鶴湾(霧の中)) 撮影:安藤 卓人

## 汽水域研究会第15回例会（汽水域合同研究会2026）開催報告

汽水域研究会の第15回例会と島根大学研究・学術情報本部エスチュアリー研究センターの第33回汽水域研究発表会の合同研究発表会が、2026年1月10日（土）から11日（日）の二日間、島根大学にて開催されました。今年もハイブリッド形式とし、延べ168名（1日目：103名、2日目：65名）の方々にご参加いただきました。

今回も常設セッションの「水圏生態研究」「環境変動解析」「流動解析」などが設けられ、研究発表が行われました。また、シンポジウム「XRFコアスキャナーを用いた最近の研究」が開催され、国内3台目の導入となるコアスキャナー「ITRAX」についての発表され、シンポジウム後には、ITRAXを国内で初導入した高知大海洋コア国際研究所との部局間協定調印式が行われました。

全体では、40件の一般講演が発表され、活発な意見交換が行われました。また、ジュニアドクター育成塾（中学生）と高専生・高校生の研究発表が7件ありました。これらの発表には大学レベルの研究に匹敵する内容もあり、国内各地から参加した研究者からも高く評価されていました。大学生・院生も含めた若い世代が「汽水」に真剣に取り組む姿勢を示しており、今後の発展への期待が高まります。



左から、シンポジウム趣旨説明、部局間協定の調印式、常設セッション発表の様子

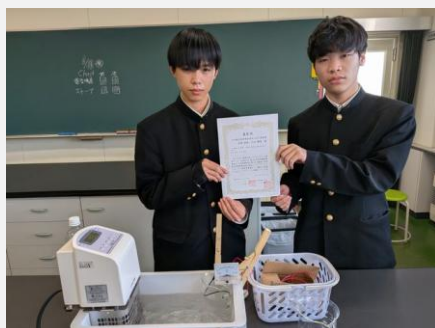
### 学生賞報告

## 汽水域研究会第15回例会 学生賞授与

汽水域研究会では優秀な若手人材の育成と学生の研究意欲向上を目的として、「汽水域研究会会長賞」と「エスチュアリー研究センター長賞」を優秀な発表を行った学生に授与しています。第15回例会においては、以下のとおり受賞者が決定され、2026年3月10日にエスチュアリー研究センター長室にて授与式を行いました。今回、「汽水域研究会会長賞」を受賞したのは、島根大学生物資源科学部の石川梨夢さんと島根大学大学院自然科学研究科のAan Diantoさんの2名。「エスチュアリー研究センター長賞」を受賞したのは、島根大学生物資源科学部の柴田舞花さん、島根大学総合理工学部の光石彩花さんの2名でした。

一方、学生賞は、ジュニアドクター育成塾において、三代智弘さん。また、高校生研究において、松江南高等学校の吉岡道哉さんと太田雅哉さん、高専生研究においては、米子高専総合工学科の立林侑莉さん、米子高専総合工学科の青木 淳之祐さんがそれぞれ受賞されました。

受賞された皆さま、おめでとうございます！



記念撮影（左から三代さん、吉岡さんと太田さん、立林さん、青木さん）写真のご提供ありがとうございました。

汽水域研究会会長賞

石川 梨夢さん

島根大学 生物資源科学部

「ミドリゾウリムシとクロレラの細胞内共生における認識機構の解明」

(石川梨夢・仲村康秀・児玉有紀)

「自分が楽しく取り組んできた研究を、このような形で評価していただき、大変嬉しく光栄に思います。本成果は、日頃よりご指導いただいている児玉先生、仲村先生、そして児玉研究室の皆様の支えによって得られたものです。心より感謝申し上げます。今後も精一杯研究に励み、より一層努力していきたいと思っております。」

Aan Diantoさん

島根大学大学院 自然科学研究科

「Holocene coastal evolution and paleogeography of the Izumo Plain and Lake Shinji: A result from the NH23 core」

(Aan Dianto, Koji Seto, Testuya Sakai, Toshimichi Nakanishi, Yoshiki Saito)

「I am deeply honored to receive the Student Presentation Award. I would like to sincerely thank the organizers and judges of the Meeting for this recognition. I would also like to express my gratitude to my supervisors, Saito Sensei and Seto Sensei, for their guidance and continuous support. This meeting has been a very valuable opportunity for me to learn from many excellent studies on estuarine and coastal environments. The discussions and feedback I received will greatly help me improve my research. I will continue to work hard and contribute to the development of estuarine research in the future, especially when I return to Indonesia. Thank you very much.」

エスチュアリー研究センター長賞

柴田 舞花さん

島根大学 生物資源科学部

「宍道湖産ヤマトシジミの殻皮剥離現象に関する野外移植実験」

(柴田舞花・松田烈至・菅原庄吾・平塚純一・山口啓子)

「本日はこのような賞をいただき、大変光栄に思っております。また、山口先生をはじめ、多くの方々にご指導、ご協力いただいたお陰であると実感しております。春からは教員として働きますが、学んだことを活かし、次は私が未来の人材を育て、環境教育の面で貢献していきたいと思っております。」

光石 彩花さん

島根大学 総合理工学部

「東南極スカルプスネス露岩域の皿池堆積物を用いた後期完新世の古環境復元」

(光石彩花・香月興太・川又基人・池原実・菅沼悠介)

「このような賞をいただき、大変光栄に思います。ご指導いただいた香月先生や研究室の先輩方、サポートして下さった皆様に感謝しています。今回の経験を励みに、これからも努力していきたいと思っております。」

右の集合写真は、左から山口 汽水域研究会会長、Aan Diantoさん、仲村 助教、光石さん、児玉 教授、石川さん、香月 准教授、柴田さん、矢島 エスチュアリー研究センター長。

学生賞 ジュニアドクター育成塾

三代 智弘さん

しまだいジュニアドクター育成塾

「なぜ宍道湖と中海にブルーギルが生息しているのか」

(三代智弘・妹尾孝一・御園真史・金相暉)

「このたびは、名誉ある賞を授与していただきありがとうございました。これからも研究を進めていくので、応援よろしくお願い致します。」

学生賞 高校生，高専生

吉岡 道哉さん，太田 雅哉さん

松江南高等学校

「宍道湖（しんじこ）・Air電池 ～湖水と空気から電圧を得る一工夫～」

「中学生が中海の研究発表をしていて驚いた。我々も中学生の頃から研究を始めていればもっとBigになれたのと思った。大学の瀬戸先生から「炭素棒に着いた宍道湖の水にドライヤーを掛けるときに、塩分濃度が上昇する。そのときの塩分濃度差が発生する電圧に参与しているのではないか?」と質問されて答えられなかったので、今年の7月に開催される全国総合文化祭出場の時までには解明して答えられるようにしておきたい。」

立林 侑莉さん

米子高専 総合工学科

「中海および美保湾に生息する魚類消化管内に存在するマイクロプラスチックの探索」

(立林侑莉・藤井貴敏・伊達勇介・礒山美華・日野英彦・青木薫・木下大・濱邊優祐)

「藤井先生をはじめ、ご指導・ご協力いただいた皆様のおかげでこの賞をいただくことができました。一から研究に取り組むことの大変さを感じると同時に、大きな達成感を得ることができました。この経験を活かし、社会でも努力を重ねていきたいと思っております。」

青木 淳之祐さん

米子高専 総合工学科

「ベントスを用いた汽水域底質環境の定量的評価」

(青木淳之祐・藤井貴敏・伊達勇介・礒山美華・日野英彦・青木薫)

「この度は発表賞をいただき、大変光栄に思います。ご指導いただいた先生方や研究発表会の関係者の皆様に感謝いたします。今後も汽水域の研究を深めていけるよう、引き続き努力していきたいと思っております。」



## 関連学会のご案内

### ◆ 日本地球惑星科学連合2026年大会

会期：2026年 5月24日～29日 6日間  
形式：ハイブリッド（現地+オンライン）  
会場：幕張メッセ（千葉県）  
詳細：<https://www.jpogu.org/>

### ◆ 日本地質学会第133年学術大会（2026金沢）

会期：2026年 9月13日～15日 3日間  
形式：対面  
会場：金沢大学角間キャンパス  
詳細：<http://geosociety.jp/>

## エッセイ

### 有機物はかく語り記 Part I

秋田大学 国際資源学部の安藤 卓人です。今回から情報幹事の特権を利用して、数回のエッセイを書いてみることにしました。こういう文章を書くこと自体は好きなのですが、はたして何を書こうか…。ふと、島根・松江での日々を思い出しながら、研究やフィールドワークについて、私の研究対象である「有機物」を中心に何か書けたら面白いなと思いましたので、これまでの研究をベースにできるだけ分かりやすく書き綴ってまいります。

さて、私は傍からみると大風呂敷を広げて色々なことに手をつけているので、「結局、何の研究をしているのですか？」と聞かれがちです。最近、パリノモルフとかバイオマーカーとかの専門用語で片付けず、「有機物のたまり方を研究している」と言っています。泥や石の中には有機物が存在します。地球上の有機物の多くは生物によって生産されますので、有機物には生物活動の情報が記録されています。私は、この有機物を使って、まるでパズルを解くように、過去の地球の生態系を理解していく研究をしてきました。ただし、泥や石にはすべての情報が残っているわけではありません。多くは失われていくのですが、例外的に有機物が良く残っているすなわち「保存状態」が良い場合があります。有機物の分解には酸素が必要です。酸化分解もありますが、酸素があることによって有機物を食べたり分解したりする生物が生息できるようになることでも、有機物は消費されます。したがって、中海のように底層が貧酸素な場所、ヘドロがたまるような環境では有機物の保存状態が非常に良いです。有機物に富んだヘドロは最終的に石油の素となる「根源岩」となります。また、赤潮のような植物プランクトンの大量発生でも有機物が大量に埋積していくことで酸素が消費されるため、保存状態が良くなります。白亜紀の研究をしていた学部どころから痕跡を追いかけていた渦鞭毛藻やシアノバクテリアは、中海で赤潮を宍道湖でアオコをそれぞれ起こしています。今の所属の秋田大学では石油地質学研究室に所属していますが、過去の研究やエスチュアリー研究センターの研究とはこうして繋がっているのです。瀬戸先生との中海での調査の日々は、私に有機物がどのようにたまっているのかを知りたい「欲」を高めてくれました。前述の有機物保存に関して、貧酸素なことが重要なのか、生物生産が高いことが重要なのかという議論が盛んになされました。秋田では主に高分子分析を駆使してこの謎に挑む研究を続けておりますが、その話はまた次回！



(情報幹事 安藤 卓人)

## 会員数（2026年3月31日）

正会員：79名（±0）、賛助会員：5名（±0）、  
学生会員：43名（+1）、計：127名（±0）  
#カッコ内は2025年10月1日からの増減を示す

## 編集後記

情報幹事の仕事を受け、気づけば3月下旬になっておりました…。突貫のため拙い箇所があると思います。NLの改善案などありましたら、気兼ねなくご連絡を。2年間よろしく願いいたします。（安藤）

汽水域研究会ニュースレター第31号 2026年3月31日発行 編集・発行：汽水域研究会

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060島根大学エスチュアリー研究センター内 汽水域研究会事務局  
[office.rgbwa@gmail.com](mailto:office.rgbwa@gmail.com) 0852-32-6450 (phone&fax)